

世界に誇れる東京の水

府中市立若松小学校

五年一組

平間

安晃

ぼくは、サッカーをやっている。暑い夏、太陽の光をさえぎるものがない中での練習は、かなりハードだ。そんな練習の合間に飲む水は本当においしい。生き返る思いだ。

このおいしい水は、多くの人の努力で成り立っている。去年、ぼくの小学校に水道キャラバンの人が来てくれて、いろいろと教えて

くれた。おいしい水道水ができるまで、水道局では何度も水質検査をしているそうだ。水が無色透明で泡立っていないか、病気を引き起こすものが含まれていないか、カビなどのおいはいしないか、そして消毒に使った成分が残っていないかなど、細かくいくつも検査する。検査は一日も休まず、毎日二十四時間ずとだ。浄水場では、川からとった水の小さなごみや砂、ばい菌を取り除いたり、消毒したりして、安全な水をつくる。ペットボトル

ルみたいなた透明な容器に石や砂を入れて、泥水をきれいにする「ろ過」の実験もやった。砂などを入れたら、もつと水が汚れるような気がしたが、きれいな水がぽたぽたと落ちてきて、驚いた。石や砂に、水をきれいにする働きがあるなんて、すごいなと思った。その他にも浄水場では、川の水を水そうに入れて生きている魚を泳がせ、魚の動き方に異常がないか観察する検査もしているそうだ。川の水も安全か、いろんな場所で検査をされていて

徹底しているなと感心した。

そんないくつもの検査をした安全でおいしい水が、蛇口をひねればすぐ飲める日本。これは当たり前前のように、当たり前ではない。世界には約二百の国があるが、その中で安全に水道水を飲める国はた「た九カ国しかないらしい。バングラデシュ」という国のように、水道の代わりに井戸があつても水にヒ素という毒が含まれていたり、ケニアやソリアという国のように、そもそも井戸さえない地域も

ある。水道がない地域では、一日に何時間もかけて、小さい子どもや女の人が水くみに行くらしい。それでも動物たちも飲むような不衛生な泥水だったりする。汚いと分かっていても、その水を飲むしかなく、お腹を壊して死んでしまう小さい子どもも多いそうだ。生まれた場所が違っただけで、こんなにも違う生活になってしまっただけだ。と悲しい気持ちになった。

去年から夕方のニュースでは、毎日コロナ感染者数が流れていて、どんどん増えていく数字に不安になる。でも、世界から見ると百万人当たりの死者数は、日本が先進国の中で最も少ないらしい。それは、清潔で安全な水道水のおかげでもあるそうだ。水がなければ、手洗いさえきちんとしてできなくて、感染リスクがもつと高まってしまう。清潔で安全な水は、ぼくたちの暮らし、そして健康にも深く関わっているのだ。

オリンピックで、海外から来ていた人が、

「東京の水道水は、きれいでおいしい！」
と言っていた。やっぱり東京の水道水のレベ
ルは高いんだなと、うれしくなった。そんな
水道水をいつでも自由に使える環境で生きて
いることに感謝して、大切に使うていきたい。
そして、「東京水」くらい安全でおいしい水
水道水が、世界中で「当たり前」に飲めるよう
になったらいいなと思っている。